

1

【出題意図】

高等学校で習得した基礎学力、文章理解力、語彙力、設問の趣旨にそって表現する能力を問う。

【解 答】

問1 (ア)濃淡 (イ)複製 (ウ)駆使 (エ)高潔 (オ)隆盛 (カ)空虚

問2 無関心性

問3 (解答例)

例1:白は、図像のマリアのように神々しいほどの純白の衣装に身を包んで表現される一方、古代エジプトから白い布に遺体をくるむ風習がある死の色、恐怖の色でもあった。(76字)

例2:キリスト変容のエピソードでも白は栄光と祝福として絶対的な色である一方、「白鯨」で描かれる白のかたまりは、人を恐怖の奈落へと突き落とす存在として登場する力をもっている。(83字)

(採点基準)

- ・ 白の両極性が分かるよう例示を抜き出している。
- ・ 数多くの例示の中から抜き出した例を対比させるために整理した文章にしている。
- ・ 文章が完結しており、文字数制限が守られている。
- ・ 誤字・脱字がない。

問4 (解答例)

白はそれ自体として自己主張の強い色であり、ある種の過剰性、両極性において際立っている。一方、灰色は自己を主張するというよりも、他者から受け取ったものを送り返し、過剰でもなければ両極端でもない。しかし、この二色の境界は、周りの状況や光の強弱によって白と呼ぶか灰色と呼ぶか変化するほど、きわめて微妙な関係である。(154字)

(採点基準)

- ・ 白と灰色の違いが分かるよう内容を用いている。
- ・ 「境界」との言葉を用い、白と灰色の境界は微妙である関係性が説明されている。
- ・ 数多くの白と灰色の特徴から違いを対比させ、その境界は微妙であるこのことの関係性を説明するために、文章を整理して構成している。
- ・ 文章が完結しており、文字数制限が守られている。
- ・ 誤字・脱字がない。

【出題意図】

高等学校で習得した基礎学力，文章理解，設問の趣旨にそって表現する能力を問う。

【解 答】

問1 (ア)さくしゅ (イ)ちゅうすう (ウ)ふじょ (エ)ようせい (オ)かたよった

問2 恣意

問3 (解答例)

特定の依存の形式を依存と認めないことで限られた人々を「自立」した存在と位置付けられる一方で、それ以外の人々を「依存」している存在とみなし、従属的な地位に留められてきたこと。(86字)

(採点基準)

- ・理由として、「特定の依存の形式を依存と認めないことで限られた人々を自立した存在と位置付けられ」が、述べられ、「それ以外の人々を自立していない存在とみなし、従属的な地位に留められてきた」が、述べられている。
- ・文章が完結しており、字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。

問4 (解答例)

障害や病気を持つ人や生活保護を受けている人たちによる権利主張に対して、私は、こんなに必死で自立しているのに、あの人たちはそういう私に依存していて、その癖さらに権利まで主張するのは許せないと、より自立していないとみなされる人々をたたいていくことであり、これは、社会にすでに存在するさまざまな不平等や格差を温存したまま自己責任を問うことにほかならないからである。(179字)

(採点基準)

- ・たたき合いにつながるような「自立」の強迫について、「障害や病気を持つ人や生活保護を受けている人たちによる権利主張は、必死に自立している私に依存している癖にさらに権利まで主張するのは許せないこと」および「より自立していないとみなされる人々をたたいていくこと」が、述べられている。
- ・救いがないについては、「社会にすでに存在するさまざまな不平等や格差を温存したまま自己責任を問うことにほかならない」が、述べられている。
- ・文章が完結しており、字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。

3

【出題意図】

基礎的な英語力を前提として、受験者が、(i) 与えられた時間内に一定分量の英文を正確に読むことができる「英語読解力」および(ii) 平易な語彙と文法を用いた「英語表現力」を備えているかを問う。

これらの力は、本学入学後に、専門とする学問領域に対する理解を深め、自らの研究や実践の成果を積極的に発信する上で求められるばかりでなく、多様な文化的背景を持つ人びとと英語を共通言語としてコミュニケーションを図り、さらには、そういった人びとと将来にわたって協働していく技術や態度を身につける上で、必要不可欠な英語運用力の構成要素であると考えられる。

【解答例】

問1 **How much does the peer group contribute to delinquency ?**

問2 **associate with** もしくは **get along with**

問3 **2**

問4 **in**

問5 **3**

問6 **4** (段落目)

問7 **who do not show antisocial tendencies ignore such talk**

<以下、別解とする>

who ignore such talk do not show antisocial tendencies

who show antisocial tendencies do not ignore such talk

who do not ignore such talk show antisocial tendencies

4

【出題意図】

交通事故の負傷者数の統計資料より、学齢別・時間帯別の傾向を読み取る問題を通して、数理技能を測る。

【解答】

問1 A 0.1 B 26.0

計算過程 (例) $28 \div 20596 \times 100 = 0.13$ 少数第2位を四捨五入し 0.1

$5360 \div 20596 \times 100 = 26.02$ 少数第2位を四捨五入し 26.0

問2 6～8 時

計算過程 (例) 100%の時は中心角が 360 度、つまり、1%の時の扇形の中心角は 3.6 度となる。

構成比を $x\%$ とすると $x \times 3.6 = 27.36$ $x = 27.36 \div 3.6 = 7.6$

問3 (1) と (2) の差

計算過程 (例)

(1) 未就園児の、8～10 時の全体数に占める割合 $309 \div 2031 = 0.1521 \dots$
四捨五入し 0.152

(2) 幼稚園児の、12～14 時の全体数に占める割合 $309 \div 2329 = 0.1326 \dots$
四捨五入し 0.133

(3) 未就園児 (8～10 時) の、未就園児全体に占める割合 $309 \div 2265 = 0.1364 \dots$
四捨五入し 0.136

(4) 幼稚園児 (12～14 時) の、幼稚園児全体に占める割合 $309 \div 2748 = 0.1124 \dots$
四捨五入し 0.112

(1) - (2) = 0.019

(3) - (4) = 0.024

問4 (ア) (イ) (オ) (エ) (ウ)

計算過程 (例)

(14 時～20 時の各学齢別の負傷者数) \div (各学齢別の負傷者数合計) を算出する。

(ア) 未就園児 $(410 + 432 + 194) \div 2265 = 1036 \div 2265 = 0.4573 \dots$

(イ) 幼稚園 (保育所) 児 $(509 + 596 + 262) \div 2748 = 1367 \div 2748 = 0.4974 \dots$

(ウ) 小学校 1～3 年生 $(1316 + 1455 + 472) \div 4960 = 3243 \div 4960 = 0.6538 \dots$

(エ) 小学校 4～6 年生 $(986 + 1517 + 548) \div 4668 = 3051 \div 4668 = 0.6535 \dots$

(オ) 中学生 $(758 + 1360 + 871) \div 5955 = 2989 \div 5955 = 0.5019 \dots$